



20川産建第833号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 殿

川上村長 藤原 忠彦



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、別添のとおり提出します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

道路は高速自動車道から市町村道に至るまで経済の発展に必要な円滑な物流の要として、そして安全で快適な生活環境を
実現する上で欠くことの出来ない基礎的な社会基盤施設である。

また、経済のグローバル化の流れによる国際競争力の強化・観光立国の推進、また地震・豪雪など災害への対応、緊急医療対策や
地球温暖化対策等の観点からみても、今後とも着実な道路整備の推進が強く求められる。

特に首都圏への一極集中に伴う渋滞問題や、付随する環境問題は都市機能を疲弊させ国際競争力の低下を招き、その結果、
もたらず経済損失は計り知れないものがある。災害など緊急時の安全確保のためにもバイパス機能を持つ高速道路等の
整備が必要であり、採算性だけで整備計画を決定させるものではない。

地方に於ける高速道路の役割は特に重要である。現在のよう都市部への一極集中は、地方を衰退させ、これからの社会構造上、
過疎化を招く要因にもなる。地域の発展のためにも住民が安心して暮らせるよう、地方高速道路ネットワークの整備が急がれる。

さらに、老朽化する道路ストックに対しても適切な維持管理が不可欠となっている。

道路整備財源についても、社会資本整備としてトータルな視点で判断し、必要な範囲内で確実に確保する必要がある。

道路は、まさしく生活関連のみならず教育・医療・福祉・環境、産業、そして何より地域の発展を支える
もっとも重要な社会資本のひとつであり、大きな役割を果たしている。

真に必要な、国民が求める道路整備を行うために、地域より意見を広く取り入れ、意向を道路整備事業の内容に充分反映させるべきである。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②-1 地域の現状と抱える課題

長野県 川上村

<p>○ 現状</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地方における高速道路の役割は特に大きいと考える。高速道路ネットワークが整っていない地方では、都市への物流機能が停滞し、地域経済の発展を阻害させている。全国有数の高原油菜の産地である川上村では、消費者にいち早く新鮮野菜を届けるよう物流の確立に努めてきた。そして国民ニーズ・農業を中心とした経済発展に大きく貢献してきた。しかし道路整備の遅れによる時間的損失、商品の劣化など、まだまだ地域発展や国内経済発展貢献への課題は多い。・ 今後の社会情勢を考えると、地域の自立を目指す上で地域医療の確立は重要課題である。川上村では地理条件上、緊急時には医療機関までの移動時間が全国平均の約2.5倍要すことから、常に生命の危機に晒されていると言っても過言ではない。不安解消にも早急の高速道路の整備が望まれる。・ 近年の異常気象は地域を問わず甚大な災害を生み出し、生活する者是对応に不安を持ち続けている。狭隘なこの地方では、被災時に避難、或いは物資の搬入や復旧に必要な物理的要件が整えにくく、代替道路の整備が大きく期待されている。・ ここに住む限り、冬期間の交通に於いて積雪・凍上対策への配慮が欠かさない。安定した通行が確保できるよう対策には苦慮している。	<p>○ 課題</p> <p>交通手段を自動車に頼らざるを得ない地方住民ほど多くの負担を強いられ、整備の遅れた状況に置かれているのが現状である。</p> <p>都市への一極集中化を避け、地方の時代を迎えようとする現在、産業の振興はもとより、地域医療をはじめ、教育、災害対策に至るまで、地域の発展を考える上で道路、特に高速道路の果たす役割はとてども大きなものであると考える。</p> <p>現在、基本計画路線である中部横断自動車道の早期実現には、この地域に暮らす者にとつてとても関心の高いものがある。充実した道路網を完備させることは生活環境面から都市部との地域格差を解消する事であり、そのためには計画の実行が何よりの解決策であろう。</p> <p>地域に真に必要な道路を整備する事こそ、安心して暮らせる社会資本整備といえる。</p> <p>中部横断自動車道の早期実現や、生活関連道路の充実に向け、どう取組むかが最大の課題である。</p>
---	---

②—2 地域の目指すべき将来像

長野県 川上村

高速道路の整備は、これからの日本の発展を鑑みると重要な社会資本である事は紛れのない事実である。

地方の自立が求められている中、今後は地域経済の発展や生活環境の改善のため、地方に於ける高速道路ネットワークの確立が必要であると考え、そして災害時のライフラインを確保する事は重要な事であると同様、住民の日常生活での安心・安全の求めに応えることは地域の重要課題であると位置づけ、その実現に向け取り組みを強化する。

また、道路整備には地域間の調整や連携が欠かさないが、住みよい環境空間を実現するため広域的な取り組みを重視し、さらには都市部との提携を持ちながら地域産業の発展のための推進を図る。

道路とは全国を結ぶ生命線であり、それは網でなければ機能を果たさないものである。地域においても道路網（ネットワーク）の確立が急がれているが、道路こそ存在機能を発揮する民生安定資本である。（存在そのものが安心を与える。）

これは、農山村ほどその度合いが強く、いかに道路に依存して日常生活を送っているか実感できるものである。

道路整備は病院・学校・文化施設など圏域内の既存施設を効率的活用させるものであり、生活圏を大きくする基本的材料であるといえよう。

また、これからは複数の生活圏域による地域連邦自治構想の可能性を探るべく取り組みも必要となろう。

これから都市部から地方の時代を迎えようとする中、地方の衰退を阻止し、都市部との地域間格差の解消を目指し、地方で生活する住民が安心して生活していけるよう、真に必要な道路の整備推進について積極的な取り組みをして行く必要がある。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

長野県 川上村

<p>○ 重点事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活力の向上 	<p>○ 代表事例</p> <p>夏場、レタスをはじめとする高原野菜の生産・出荷量で日本一を誇る川上村は、地域経済発展のため物流確立に努めてきた。現在は首都圏から始まり中京圏、近畿圏さらには九州方面まで新鮮野菜の提供を行っている。</p> <p>しかし現在の交通網を利用した物流形態では、限られた地域への提供しかできず、また時間的制約から鮮度保持の問題も抱えている。</p> <p>現在川上村では輸送の前に野菜の予冷処理を行い鮮度の保持に努めているが、時間の制約から配送先が遠方になるにつれこの予冷処理が十分出来ず、新鮮なままの野菜が消費者に届きにくくなっている。</p> <p>こうした状況は、生産者・消費者ともに不利益となる事実であり、高速輸送手段の高速交通網の確立が大きな課題となっている。</p> <p>近年の消費者ニーズを見ると多様化しており、新鮮さはもとより安心・安全が絶対条件となっている。そのため充実した高速道路網を利用した物流により、安心・安全な川上村産高原野菜の広域的な安定提供が実現するよう中部横断自動車道の早期完成を切望するものである。</p>	<p>○ 期待する効果や評価等</p> <p>本村では台湾をはじめ海外へも高原野菜を輸出しており、国内での各PR活動も相まって川上村ブランドが定着しつつある。その中で鮮度をどう保持し、消費者まで届けるかが課題の一つである。</p> <p>出荷野菜は鮮度を保つため通常予冷処理を行うが、高速輸送手段（中部横断自動車道）を用いることにより流通時間が30分短縮されるため、流通時間の関係上予冷処理出来なかつた地域への配送品にも十分な予冷処理が出来るようになる。</p> <p>また、この急速予冷システムにより5℃に保たれた野菜は3日間鮮度を保つたまま保存できるため、購入者にとつてのメリットも大きいと考える。</p> <p>こうした事により<u>全国全品予冷</u>が可能となり、鮮度を保持したまま各地へ川上村産の野菜が届くようになるため、消費者利益へと繋がる。</p> <p>また関西方面への30分短縮は市場拡大にも繋がり、中部横断自動車道沿線地域の活性化に貢献する。</p> <p>こうして中部横断自動車道を利用した物流により、高品質野菜の広域的な提供を可能にし、消費拡大</p>	<p>○ その他</p>
---	--	---	--------------

<p>○ 重点事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活力の向上 (港湾と高速道路の連鎖効果) 	<p>○ 代表事例</p> <p>日本農業の見直しが叫ばれる中、ここ川上村でも「守りから攻めの農業」〔安全・安心の農作物を世界市場へ〕を展開している。</p> <p>現在、消費拡大やブランド化などの高付加価値化のため、台湾をはじめ香港にもレタスを中心に輸出事業を展開している。今は陸送の関係上、横浜港を利用しながら取り組みを行っているが、この横浜港は貿易港として業界の利用度が激しいため常に<u>海の渋滞</u>の根元にもなっている。</p> <p>川上の安全なレタスはもとより、日本の先進技術や物を少しでも早く世界に発信するためには、この渋滞を避けるべく対策も必要かと考える。</p>	<p>大、さらには地域経済・国内経済の発展に寄与するものと考える。</p> <p>○ 期待する効果や評価等</p> <p>港にも渋滞は存在し、流通の妨げにもなっているところだが、川上村にとって高速自動車道、特に中部横断自動車道の開通は静岡までの早着陸送を可能にし、清水港からの船便の利用までも可能にする。これは国外消費者までの時間短縮になり、また港利用者の分散にも繋がりが、海上輸送事情にも大きく貢献するものである。</p> <p>中部横断自動車道の開通は太平洋ばかりでなく、日本海上の輸送にも大きな影響力を持つ。新潟港の利用が容易になることにより、中国やロシア大陸までもが輸出相手国として名を挙げる日も近いであろう。</p> <p>この道路は、清水港・新潟港が農産物の輸出入の基地港としての役割を果たすための、重要な責務をも担っている。</p>	<p>○ その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 良好な生活間・自然環境の形成 	<p>川上村は県の最東端に位置し、住民は中央医療機関をはじめ主要公共施設の利用に不慣れを感じている。</p>	<p>高速道路（中部横断自動車道）を完備することにより、収容までの時間が68分から41分に短縮さ</p>	

<p>・ 総合的な交通安全対策及び危機管理の強化 及び 水害等の災害に強い国土づくり</p>	<p>特に緊急医療機関までの移動時間は、救急車の出勤から病院収容まで全国平均27分に対し、本村からでは68分と約2.5倍かかっている状況である。 地方の時代を迎え、地域医療の立後れを緊急医療機関への早期移動にしか頼れない村にとって、高速道路の整備は不可欠と考える。</p> <p>標高2,240mから生まれ出る千曲川の源流を抱える川上村は、千曲川に沿って集落が点在し、その自然の恵みとを与りながら地域産業に従事する農業立村である。 各地で発生が予想せぬ大火や地震、豪雨・豪雪災害や地震被害、さらには予期せぬ大火や地震の形状変化など、ここ川上村でも十分考えられることである。 被災時、移動のための道路が機能を失うと、陸の孤島化する恐れがあり、主要幹線道路（国道）にアクセスするにも時間を要し安全の保証もない。 被災時の避難や復旧対策を考えると地理条件上、住民の不安は解消し切れない。</p>	<p>れ、緊急事態における死亡率が著しく低下する事が予想できる。過去においても時間的要因で亡くした生命がいくつあつたため、高速交通網の整備による医療の拡充に期待が寄せられる。 こうした医療の充実により地域での安心が補償され、地域振興・発展の役割を果たすものと考ええる。</p> <p>被災時には安全な避難と、早急な復旧作業が望まれる。また関連道路の確保は絶対条件であり、住民の安定生活には欠かせないものである。 村内のみならず周辺の地域は千曲川沿いを生活の拠点としているため、当然、主要道路も水害等の被災対象となりうる。 避難や復旧、遠方からの対策物資等の搬入を考えれば、バイパス機能をもつ高速道路を完備する事により、安全に迅速な対策が講じられる事になる。 日頃から地域に住む者にとって、常に安全・安心に包まれた生活が送れることとなる。</p>
--	--	--

中部横断自動車道の建設により 川上村の高原野菜はより世界に近く

中部横断道自動車道の建設により

川上村 新潟港: **約50分の短縮**

将来、新潟港から中国・サハリンへ

サハリン
中国

将来



パンフレット(中国語繁体字)

中部横断自動車道
(建設予定)

中部横断道自動車道の建設により

現在: 川上村 横浜港

将来: 川上村 清水港 **約50分の短縮**

将来、清水港から香港・台湾・シンガポールへ

現在

将来

* 収穫直後 **30分の予冷**

野菜の価値を **2日間延ばす**



所以就是味美
(だから美味しい)

香港のスーパー

香港
Hong Kong
台湾
Taiwan



香港
台湾
シンガポール